

中同協：障害者問題全国交流会

回次	開催日時	開催地	参加人数	メインテーマ	記念講演		分科会
				テーマ	講師		
第1回	1983.11	滋賀	11/22~23 14同友会53名	すべての人が働く喜びを		田村 一氏 大木会理事長	①障害者雇用にかかわる問題点 ②会社(家族)で障害者を抱えて ③障害者問題と自治体
第2回	1985.2	京都	2/23~24 15同友会65名	すべての人がともに生きる喜びを ー完全参加と平等ー	生きる!わが道と視覚障害	竹下 義樹氏 弁護士	①障害者雇用にかかわる諸問題 ②会社(家族)で障害者をかかえて ③障害者問題を同友会はどうとりくむのか
第3回	1987.2	大阪	7/7~8 21同友会120名	ゆたかな人間の発達をめざそう ~障害者と共に育ち合う 社風づくり~	人格の発達と労働の役割	二宮 厚美氏 神戸大学教授	「基調報告・人間として誇りをもって働ける職場づくり」 報告者・木野口 功氏 ㈱アイワード社長 分散会
第4回	1989.2	愛知	2/7~8 21同友会178名	障害者と共に育ち合おう	教育の本道はこれだ!!	田中 良三氏 愛知県立大学助教授	雇用企業・作業所見学5コース
第5回	1991.3	東京	3/22~23 21同友会194名	見つめよう経営と人間の原点を	生きること、学ぶこと どんなに障害が重くともいのちの輝きを	清水 寛氏 埼玉大学教授	①障害と職場のコミュニケーション ②障害者を「送り出す側」「受け入れる側」 ③気負わずじっくりの障害者雇用で職場が変わった ④ヒトを人として、発達保障の労働の姿を
第6回	1992.11	福岡	11/12~13 21同友会243名	バリアフリーの社会を求めて ~すべての垣根をなくし、 共に生きる企業のあり方は~	あなたもわたしも地球の子ども ~思いやりのある暮らし方を求めて~	池田 克輔氏 伊万里こすもす村 一粒園園長	①障害者を「送り出す側」「受け入れる側」 ②(主に身体障害者)雇用企業経験報告 ③(主に精神薄弱者)雇用企業経験報告 ④福祉と共に生きる企業経営 ⑤見学分科会「ひかり共同作業所」
第7回	1994.10	千葉	10/27~28 23同友会353名	輝け生命!すべての人が 共に働く喜びを	どの子どもも花咲く未来がある ~知的障害児の成長を願う 「九十九会」のとりくみ~ 車いすからの旅立ち	齋藤 茂氏 横の木学園園長 鈴木 ひとみ氏	①障害者を「送り出す側」「受け入れる側」の共通理解を進めるために ②雇用企業経験報告 ③雇用企業経験報告 ④企業見学会 ⑤施設見学会
第8回	1996.11	石川	11/7~8 26同友会320名	バリアフリーは 心と心のコミュニケーション ~すべての人が人間らしく 生きていくために~	わたしは思いっきり	津田 たまえ氏 ハート・サイド・ネットワーク会長	①障害者の社会参加を考える ②障害者雇用企業報告 ③生活環境(住宅・ケア問題と企業の役割) ④生活環境(福祉・介護機器の研究開発、産業化) ⑤企業・施設見学
第9回	1998.11	愛知	11/12~13 23同友会325名	踏み出そう!!感動と共生の社会へ ~心が人を動かし、時代を創る~	日米の身障者をとりまく環境の違いから21 世紀の日本の身障者や高齢者問題を考える	山崎 泰広氏 ㈱アケイインターナショナル社長	①障害者を雇用すると会社はどう変わる ②ニーズが広がる住宅・機器 ③経営って何だろう~人間の持つすばらしさの発見 ④共同作業所見学 ⑤人にやさしい商店街づくり(ウォッチング)
第10回	2000.10	大分	10/26~27 23同友会246名	創ろう、企業と障害者の共生社会	障害と同居している私を導いた人達 ~ともに働ける機会と喜び	齋場三十四 佐賀医科大学教授	①障害者雇用 ②パネル~養護学校・障害者・障害者職業センター・企業 ③中途障害者雇用 ④見学~太陽の家 ⑤障害者の生活~住宅と街づくり
第11回	2002.10	静岡	10/24~25 23同友会357名	共生、共働、共感 個性輝く、豊かな社会	何より人間、夢、希望、笑顔 ~心身に障害はあっても、仕事に障害はない	鈴木 利幸 ホンダ太陽㈱前社長	①障害者の実習受け入れ ②ユニバーサルデザイン ③パネル討論~養護学校・親・ハローワーク・市・企業 ④障害者雇用 ⑤施設見学会
第12回	2004.10	福島	10/21~22 32同友会462名	創ろう、障害者と共に生きる 企業、地域、社会 ~めざそう、すべての同友会に 障害者問題委員会の設立を	変革は、弱いところ、小さいところから ~精神障害者施設「北海道・浦河べてるの家」 の実践が教えるもの	清水 義晴 えにし屋 代表	①障害者雇用 ②障害者の実習受け入れ ③ユニバーサルデザイン ④パネル討論~地域ネットワーク ⑤施設見学会
第13回	2006.10	福岡	10/26~27 24同友会239名	バリアフリーの社会をめざして	バリアフリーの社会をめざして	松尾 清美 佐賀大学医学部助教授	①地域で障害者の働く場づくり(パネル討論) ②障害者の仕事づくり ③商品開発 ④職場実習・障害者雇用 ⑤学校の見学会

障害者問題全国交流会参加者数

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回
	滋賀	京都	大阪	愛知	東京	福岡	千葉	石川	愛知	大分	静岡	福島	福岡
同友会	1983	1985	1987	1989	1991	1992	1994	1996	1998	2000	2002	2004	2006
北海道	3	2	3	4	2	1						2	4
青森												1	
岩手								1				2	
秋田												1	
宮城							3					0	1
山形								1				0	
福島	1	1	1	1	2	1	2	2	5	4	21	247	4
茨城			1				1					3	
栃木					5		8				1	2	
群馬							1					1	
埼玉	2	1	3	4	3	1	4				3	5	
千葉	2	4	6	2	15	5	256	9	6	3	3	7	
東京	1	3	4	4	110	5	30	5	7	4	4	8	6
神奈川		2	1		3					1		3	4
山梨											2	0	
長野		1	2	1	1			1	1	1	4	7	2
新潟	1	2	2	2	2	3	2	1				2	
富山					3		2	9	10	5	1	6	3
石川			1	3			3	220	5	2	1	0	
福井						1	1	9	3			0	
静岡	1	3	1	5	3		1	3	8	5	209	9	3
愛知	4	7	15	106	6	6	8	11	157	7	10	6	8
三重				1			1	1	2			0	
岐阜				9				2	2			0	
滋賀	14	4	2	3	1	1	2	2	1		4	8	15
京都	6	22	16	11	12	8	3	7	4	9	11	11	11
大阪	3	6	39	10	10	12	6	10	13	7	4	5	3
兵庫	2		4	1			2	1	3	3		2	
奈良				1	3	2						0	
和歌山				1					1		6	2	
島根												1	
鳥取												0	
岡山			1									0	
広島	4	3	4	4	1	1	2	1	4	2	4	2	5
山口										1		1	1
香川			1	1	3	2	2	2	3	2	1	0	3
徳島												2	2
愛媛			1					3		3	1	3	2
高知								2				0	
福岡	2	2	5	1	4	164	6	8	10	16	12	11	119
佐賀												0	
長崎					1	2				5		0	1
熊本						2		2	2	3		2	4
大分						4		1	3	133	7	5	11
宮崎						2		1	2	10	1	0	4
鹿児島						1				2	1	2	4
沖縄					1	2	2			2	4	10	9
中同協	2	2	2	3	3	4	5	4	4	5	4	4	4
小計	48	65	115	178	194	232	352	318	256	235	319	383	233
来賓他		18	5		13	11	1	2	69	11	38	79	6
合計	48	83	120	178	207	243	353	320	325	246	357	462	239
同友会数	14	15	21	21	21	22	23	25	22	23	23	32	24
開催地以外からの参加者						68	96	98	99	102	110	136	114

## [23] 国際障害者年にあたってのアピール（一九八一年三月）

昨年、中小企業庁が発表した『中小企業の再発見—八十年代中小企業ビジョン』では、「中小企業は、日本経済の重要な分野を積極的に担ってゆくもの」という基本的見解を表明したことに付いて、私たち中小企業経営者の多年の主張が、理論的、実践的に証明されたとして大いに意を強くしています。この見解は、本日、第十一回中小企業問題全国研究集会を終了するに際しても、記念講演、分科会などで、あらためて確信したことでした。

日本の社会が、中小企業を「再発見」したと時を同じくして、国際連合は、一九八一年を、国際障害者年としテーマと五つの目的などをきめ、各国が十ヶ年にわたる国内行動計画をたてるよう呼びかけました。その目的の一つに障害者雇用問題があります。

日本の中小企業は、障害者の雇用について、従来から積極的では、例えば、障害をもちつつ働いている人、百人中、六十四人が、五人から九十九人規模の事業所で働いており、重度障害者を雇用する率も高いなど統計が雄弁に物語っております。そして、企業規模が大きくなるほど雇用率は下がっています。これらのことは、過度な効率至上主義が人間のやさしさや思いやりを失わせることになるかと物語っているようです。その中で、日本の中小企業は、法や規定、助成の有無、さらに国際障害者年の決議や目的を知る知らないに拘らず、社会活動の上ですでに、先進的な存在なのです。

しかし、つい十年ほど前までは、中小企業は、社会進歩に役立たないもの、切捨てられてあたりまえのものという論調が横行していました。それがいま、今日「再発見」というところまで前進してきたのです。勿論、未だに大企業との格差が厳然とあり、しかも大きいことを認めます。この格差をちぢめるのは、世論であり、なかでも教育の力が大きいことは、この研究集会の分科会でも討論されましたが、私たちは互に力をあわせて自助努力することが最も大きな原動力であることを自らの体験を通じて確認しております。

いま、国際障害者年にあたり、営々と経営努力を重ねつつ、中小企業の社会的地位を高め、しかも、その中で障害者雇用について大きな貢献をしつづけてきた私たちは、障害者問題について理解を深める契機とし、国や自治体に対しては、障害者の「全面参加と平等」の実現のために適切な措置をとるよう要望し、障害者と健常者がともに手を組んで力をあわせて困難をとりのぞく意志と行動を、と訴えるものです。国連決議は「障害者をしめ出すような社会はもろくて弱い」と指摘していますが、私たちは強くてたしかかな日本社会を築くために、今後十年間にわたるこの運動に積極的に参加しましょう。そして障害の最も大きな原因である戦争を地球上からしめ出す行動の一翼をとるに担いましょう。

一九八一（昭和五十六）年三月二十八日

第十一回中小企業問題全国研究集会

[32] 同友会運動と障害者問題（国連・障害者の一〇年最終年にあたって）  
（一九九二年十一月）

私たちは、国民や地域とともに歩みながら豊かな社会と地域づくりに貢献すべく、同友会運動と企業活動に励んできました。真に豊かな社会とは、障害者・高齢者・子どもなど社会的弱者の問題に対して社会全体が、また一人ひとりの人間が、あたりまえのこととして関心を持ち、そうした問題の解決のため共に考えることができる社会です。ですから、わたしたち中小企業家がまず一人の人間として、障害者問題に関心を持つよう努力するということは、豊かな社会をつくるという同友会運動の大きなめあての実現にとって大変大事なことです。さらに、社員や地域の人々にとっても障害者問題に関心を持つということは、自らが人間らしさを回復していく上でも欠くことができません。障害者問題に取り組むということは、長い歴史を通して動物の弱肉強食の世界とは一線を引いてきた人間としての証ともいえます。

私たち中小企業は、これまでも障害者雇用について大きな役割を果たしてきました。障害者雇用についての法定雇用率一・六％が未達成企業の割合は、従業員一、〇〇〇名以上の企業で八〇・八％なのに対し、従業員六三名以上九九名以下の企業では四〇・七％となっており、実際の雇用率は前者で一・二三％、後者で二・〇四％となっています。（労働省調べ）障害者問題に対して一般的関心を持つと同時に、私たちは企業経営者として障害者の雇用機会を拡大するという特別の社会的役割も担っ

ています。障害者問題は、私たちに、働くことは人間にとって権利であり、労働の場であてにされながら能力を開花していくことにより人間は人間らしくなっていくことを教えています。障害者の自立と人間としての発達を保障するために雇用への努力を一層強めたいものです。

本来、企業を初めとしてあらゆる人間の組織は、心、体、年令、性など様々なハンディキャップを持った人間の集団であることが自然です。しかしながら、『健康な』人間ばかりの中で生活してきている現代青年は、かえってそのことにより成長が阻害されているともいわれています。障害者や高齢者を施設に隔離するのではなく、いっしょに暮るのが当然とする「ノーマライゼーション」の実現は、社会そのものの健全さを回復する上でも、切望されているといえるでしょう。

「国連・障害者の一〇年」の最終年にあたり、人間尊重を標榜し、すべての人が人間らしく生きることができ環境づくりをすすめる同友会運動にたずさわるものとして、私たちは障害者と共に生きる社会と企業をめざしてより旺盛に活動を進めていくことをここに宣言します。

一九九二年十一月十三日

中小企業家同友会全国協議会第六回障害者問題全国交流会